

2009年
9・10月号

TOKYOタイムズ トキオ

NO. 92
岩本工業 (株)

ホームページ <http://www.iwmt-kg.co.jp/>

Eメール: iwamoto@iwmt-kg.co.jp

国は国民を守るべし

国民は教育・勤労・納税の義務を果たすべし

H21年8月吉日 岩本 博之

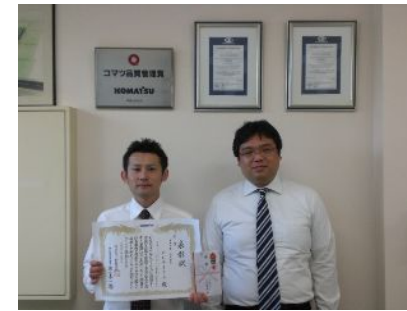
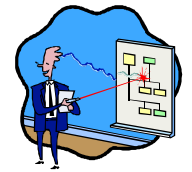
クリントン氏が北朝鮮を訪問し2名の女性記者を連れ帰った行動は大賞賛されるのではないのでしょうか。「政府の介入がなかった」というホワイトハウスの公式立場とは異なり、米政府当局者が事前にクリントン氏と会って訪朝を説得したことが確認され、ホワイトハウスはクリントン氏の警護のため警護室の要員を送り、米空軍は米機が北朝鮮領土に着陸することを禁止しているがこれを特例として認めるため、FAAと米務省高官が速やかに協議し北朝鮮へ向かう発着(それも財閥系の民間機2機ですよ)の際はアラスカ州エルメンドルフ基地と日本・三沢基地に、給油できるよう便宜を提供した。…米国特派員の記事より抜粋

日本で例えば、森元首相が拉致問題で大活躍をするような大事件であり、このような結果があれば衆院選は大勝利となったでしょう。国内政治を見ると大阪府知事・杉並区長・横浜市長が“文科省は要らない!”と、現役の勇氣ある発言にはビックリ仰天しました。私も付け加えるなら“外務省は要らない!”。そして一部の政党が“官僚排除”“インド洋沖給油反対”更に中学卒業まで月額2万6000円の子ども手当を支給、公立高校の実質無償化、大学生など希望者全員が受けられる奨学金制度…等々マニフェスト(政権公約)は美辞麗句を羅列し、財源はどうするの?と国民は戸惑うばかりです。私だったら5年間で消費税を25%に上げ、間接直接税含め北欧並みに50%超とした上で老人用住居施設・医療費無料。保育所から大学の無料化を図ると共に実務学校の充実や、もっと過激かも解りませんが「専守防衛」を絵空事と認識し徴兵制を義務化します。陰湿ないじめや悪しき平等のぬるま湯的環境から、入隊すれば厳しく不自由な規律の元で共同生活し、シミュレーションとはいえ戦争の疑似体験をすれば如何に過酷なものか、或いは野戦演習では生き残る為に上下関係や同僚との信頼が如何に重要かを認識出来ます。デイフェンス(防御)やオフェンス(攻撃)を自覚し「リセット」出来ない現実を体験します。戦争を仕掛けられない、しない為にも!

冒頭の話に戻りますと「結果よければ全て善し!」金正日の満面の笑みと、クリントン氏の釈然としない表情のツーショットを見て大人の判断をすべきです。それに引き換え日本では核兵器搭載の米艦船の寄港などを黙認する密約を交わしたとされる問題に関連し、現在も延々と水掛け論をしているようでは足元の緊急課題の処理も遅れます。情報開示と秘密遵守・リークを履き違えないようにしなければなりません。まさに「総素人時代」でコメディアン・作家の(人気さえあれば)素人でも施政可能な緊急事態です。テレビを見れば金太郎飴の如く新聞もしかり、お笑い・犯罪・芸能などの切り口は同じで、苦笑しか起こらず嘆かわしい限りです。遅くはありません今一度、「清き一票」を行使してください!! 家族・友人を守る為にも。(この稿は本来9月初旬の社内報配布ですが、敢えて投票日前の8月25日に号外?とします。)

オール栗津QC大会

7月6日



第31回の社内QC大会で最優秀賞となったPCサークル「スイングマシナリーケース加工ラインの夜間無人運転の拡大」今回 コマツ様の大会で発表させて頂き、見事“金賞”に輝きました。

発表・山口さん(左) プロジェクター・北本さん(右) ご苦労様でした。

“金一封”を胸に「これからも頑張るぞ!!」

コマツ工場感謝祭

8月2日

第2係 的場 正俊

今年は小松工場を閉鎖し、港そばの新しい金沢工場に移管されるということでメモリアル工場開放DAYと銘打って行なわれていたものです。当日は怪しい雲行きで時々雨も降ったりしていましたが10時過ぎから大勢の来場者が訪れました。まずは機械工場の見学をしましたが置いてある機械、部品、製品全てがとても大きくびっくりしました。ただ社内研修会で中嶋次長の講義にあった特別な機械などは見られず残念でした。150トンの大型門型5面加工機で風船割りや世界に5台しかない三次元測定器のジョイスティックを使ったクレーンゲームなど高額な機械に触れ合い易く体験出来る様に工夫されていました。また建機のデモンストレーションでは女性の方が素早くパワフルに建機を操っており、見学の子供達も食い入るように見ていましたが、こういう体験から製造業に興味を持ってもらえるのは良いことだなあと思いました。私が帰る頃には来場者が増える一方で道路が渋滞になる程で、コマツ様は地域社会との交流も上手くいっているようでした。



津田駒工業様 新入社員来社

10年程前より毎年この時期に津田駒様のフレッシュな新入社員にお越し頂いております。今年も野々市工場の担当者が10名(女性1人を含む)を連れて来社されました。見学の後は弊社社長より熱の入った話があり『製造業のおもしろさ』を感じていただけたかと思います。



マシンバイスについての説明



自動測定装置についての説明